

# 蘇南高 性差ない制服に

## 生徒の学習 きっかけに 多様性を尊重 選択制

南木曾町の蘇南高校（小川幸司校長、148人）は、新しい種類の制服を導入するなど生徒の多様性を尊重する取り組みを進めている。ジェンダー（社会的性差）平等に関心がある生徒3人の探究学習がきっかけで、3人は多様な価値観が認められ、誰もがより訪れやすくなる学校になることを願う。

（大高崎慧）



新しく導入される制服を手に取り組みについて話す垂見さん(左)と野口さん

いずれも3年生の垂見琳香さん、野口晶晴さん、今井萌衣さんが中心に取り組んでい。新しい制服は男女中間的なデザインをしており、今までの男女用と合わせた計3種類から、性自認に限らず生徒の自由な好みで選べる。来年度から試験的に始め、再来年度に本格導入する。3人は校則で、女子だけがスカートかスラックスを選んで着られるなどの制服の規定が「今の時代に合っていない」と感じ、見直したいと思った。最初は男女共用の「ジェンダーレス」制服に統一する案を考えたが、生徒に聞き取りをする中で現在の制服が好きという意見もあり、統一化はむしろ多様性をなくすと判断。自由に選択できる案に変えた。教員や生徒会が協力し、全校にアンケートを取った結果、89%が制服多様化の案に賛成し、導入することになった。

23日、ホームルームの時間で制服改革などについて全校に報告があった。導入に合わせて校則の制服規定を変え、性差なく誰でも利用できるトイレや更衣

室も設置する。

教職員に協力を求めたり制服業者と相談したりと、約1年をかけた。野口さんは「みんなが安心して過ごせる校へ来られるようにな

学校にしたいという思いが強まった」と話とも教師やカウンセラれば」と願った。3人の進路を志望しており、今回の経験を今後に生かしたい考えだ。